異方性材料シミュレーションの検証法としての3Dプリンタの可能性

7020615 山口玲智 3Dモデリング(salome_meca) 3Dプリンタ 木橋など 木材 異方性材料 印刷 安価 5万円~ (例) ハニカム構造 せん断変形 3Dプリンタで木材のせん断変形 有限要素 → 印刷された実物での実験 精度検証 を表現できるか?

しかし…印刷される母材は 等方性

1

昨年度の研究では…

ミルフィーユ状 のモデル

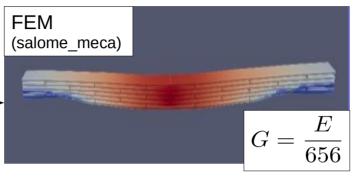


曲げ試験体(充実断面)

3Dプリンタ材料(母材)のヤング率

 $3.051 \sim 3.176 \, [GPa]$

材料定数





せん断弾性係数 Gがかなり小さい

┣ せん断変形 大きすぎる

$$v = \frac{P\ell^3}{48E_{\text{\tiny bh}}I} + \frac{P\ell}{4kGA}$$

今回は…

格子状だとどうなるか?

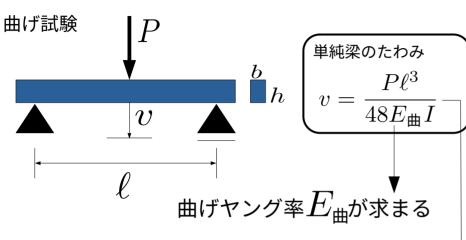
等方性

$$G = \frac{E}{2(1+\nu)} = \frac{E}{3}$$

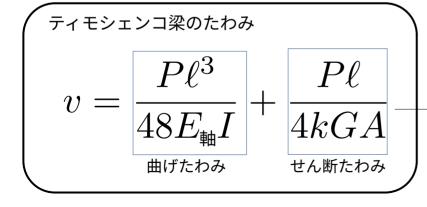
$$G = \frac{E}{15}$$

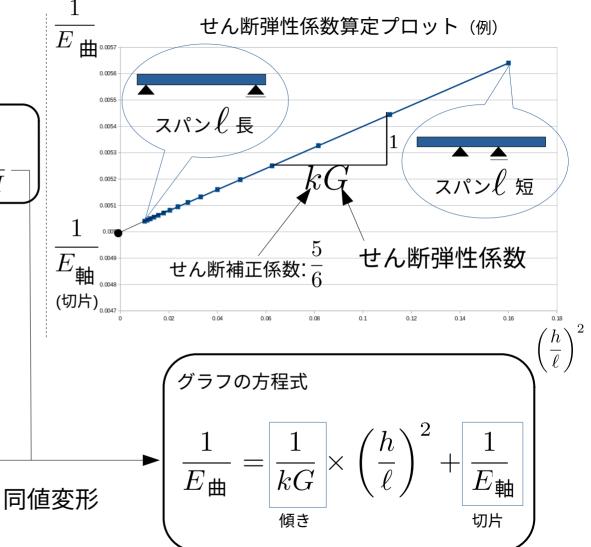
程度

せん断弾性係数Gの測定

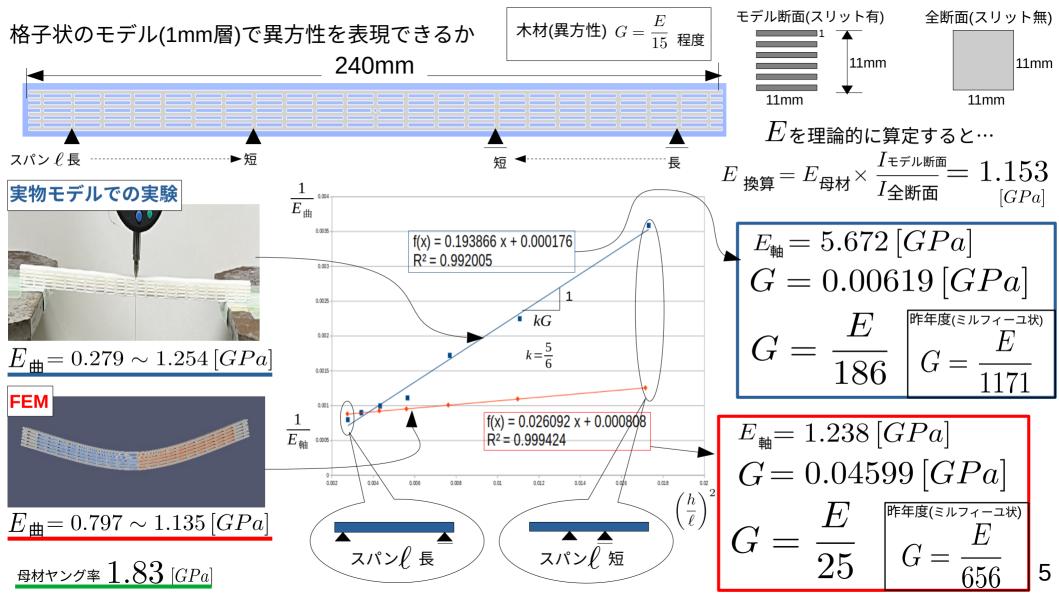


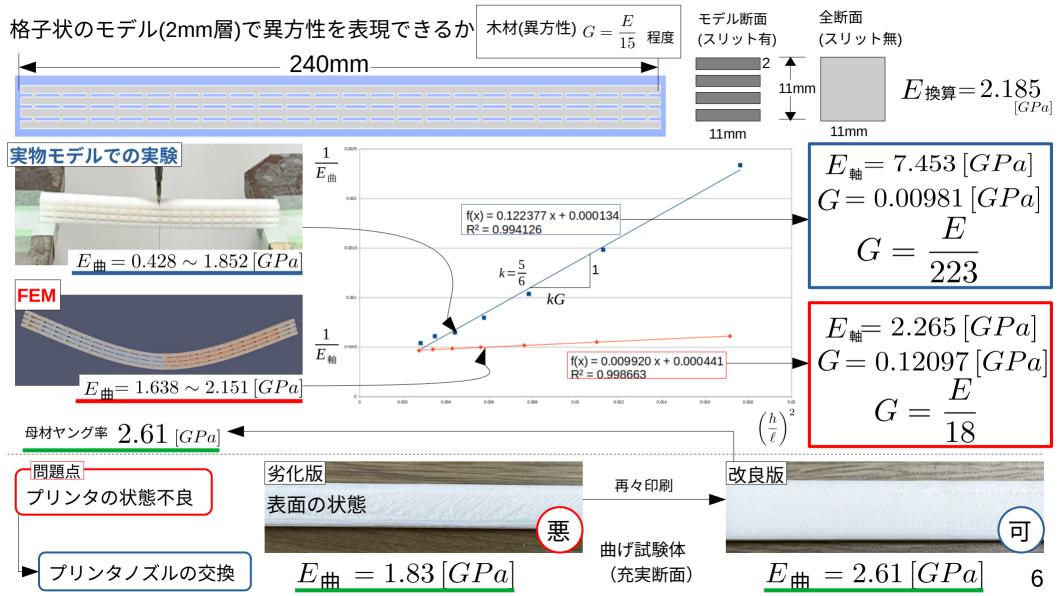
せん断変形を考慮すると…



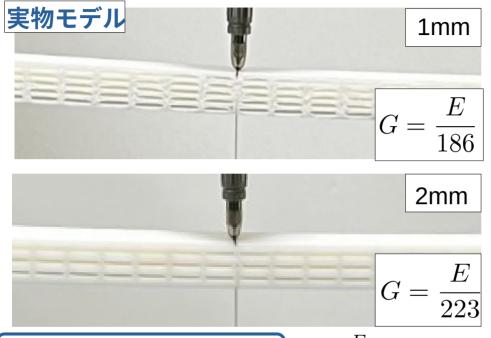


母材(充実断面)の曲げ試験 支点に シール台紙 同じモデル →今年度 昨年度 以前の問題点 ITLIT 支点で引っかかる →たわみ具合に影響 全体図 荷重 f(x) = 1.359342 x - 0.119886f(x) = 1.218340 x - 0.073731 $R^2 = 0.998900$ たわみ ι $R^2 = 0.978062$ ばらつきの改善 測定 P[N]昨年度 今年度 傾きから 曲げヤング率が求まる 1.500 0.500 1.000 2.000 2.500 v |mm|v |mm|昨年度 表面の状態 $E_{\rm thh} = 3.26 \sim 3.51 \, [GPa]$ 良 新たな問題点 再印刷 幅,高さ,スパンは統一 プリンタの状態 今年度 $E_{\pm} = 1.83 \, [GPa]$ 変わった? 悪

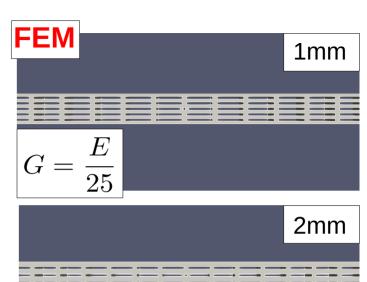


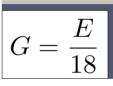


まとめ

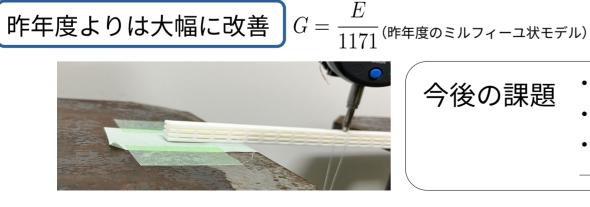


 $G = \frac{E}{15}$ 木材(異方性)





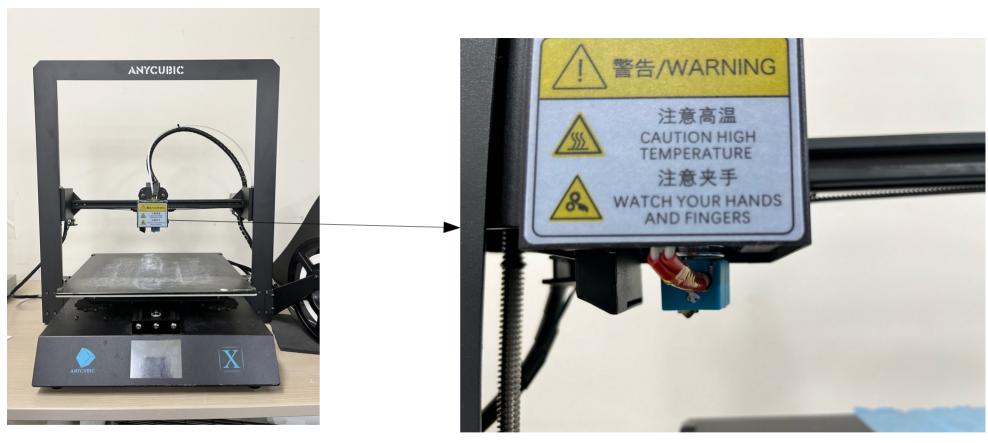
FEMなら表現可能



・印刷状態の整備 今後の課題

- ・実験精度のさらなる向上
- ・スリットの入れ方の改善

▶ せん断変形 もっと**小**さく



3Dプリンタ本体

プリンタノズル

Arreune 31

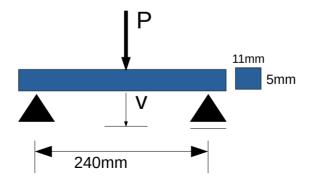
3Dプリンタ印刷方向

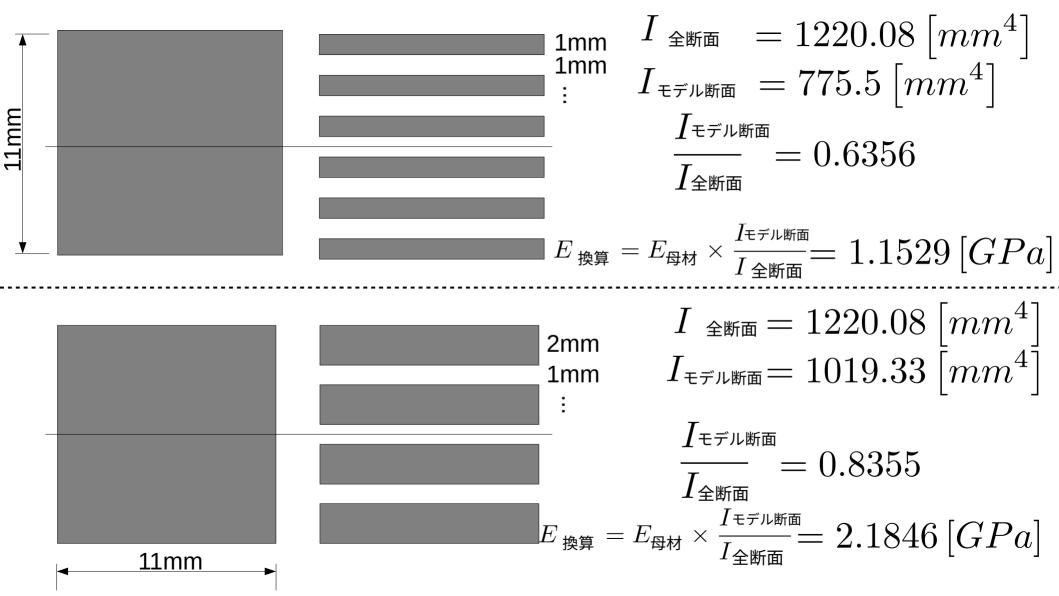
母材ヤング率 (印刷は昨年度)

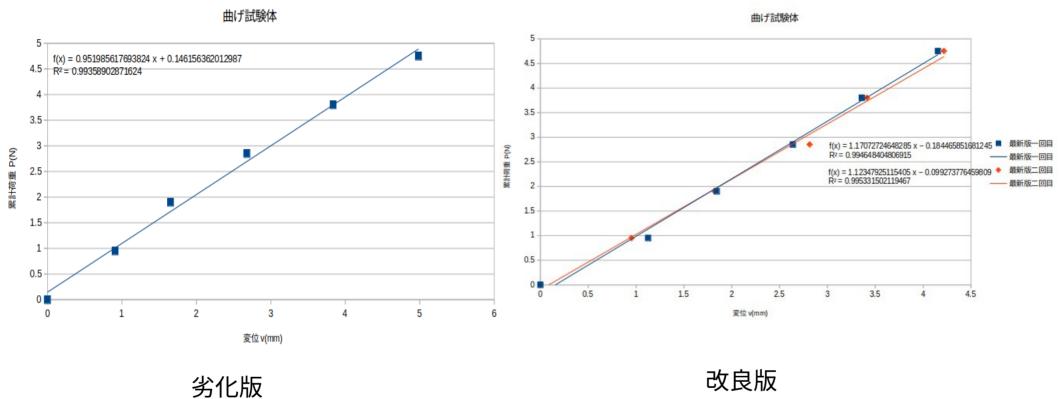
$$E \not= 3.283 \sim 3.336 [GPa]$$

$$E = 3.420 \sim 3.515 [GPa]$$

$$E_{++} = 3.260 \sim 3.375 [GPa]$$







母材の曲げ試験

